

研究成果情報

【ときめき】 No.472 号
2026 年 1 月 26 日
島根県農業技術センター

タマネギの収穫作業等の平準化に向けた品種選定

【要旨】本県の品種構成として、現在の‘七宝早生7号’、‘ターザン’、‘もみじ3号’に加え、‘C-94’、‘アンサー’および‘慶’が収穫作業等の平準化につながる品種として有望です。

#タマネギ#広域玉葱調整保管施設#収穫作業#平準化

島根県では、水田園芸推進品目の一つであるタマネギにおいて、作付規模の拡大に必要となる労力分散を図るため、作型の異なる3品種[七宝早生7号(早生)、ターザン(中生)、もみじ3号(晩生)]を組み合わせた作付けを推進しています。JAしまねが運営する広域玉葱調製保管施設では、5~6月にかけて収穫物の荷受が行われ、乾燥調製された後に県内外へ出荷されています。

現在、3品種の作付割合は‘ターザン’(中生)に偏っているため、作付規模の拡大や広域玉葱調製保管施設の効率的な運用を図るためにさらなる労力の分散が必要となっています。そのため、熟期の異なる15品種を栽培試験し、収穫作業や荷受作業を平準化できる品種の探索を行いました。

【研究の成果】

試験は、早生~晩生15品種を用い、収穫期および収量を調査しました。その結果、供試品種のうち、‘C-94’および‘アンサー’は倒伏揃期が5月17日であり、慣行早生品種‘七宝早生7号’と慣行中生品種‘ターザン’の中間となりました。また、‘慶’は倒伏揃期が5月27日となり、慣行中生品種‘ターザン’と慣行晩生品種‘もみじ3号’の中間となりました(図1)。推定収量は‘C-94’が7.4t/10a、‘アンサー’が7.5t/10a、‘慶’が7.2t/10aとなり、いずれも慣行品種並みでした(表1)。以上の結果から、‘C-94’、‘アンサー’および‘慶’は収穫作業等の平準化につながる有望品種であり、今後現地実証を行う予定です。

表1 各供試品種のうち有望及び慣行品種の推定収量(2025)

供試品種	七宝早生7号	C-94	アンサー	ターザン	慶	もみじ3号
推定収量(t/10a)	7.7	7.4	7.5	7.4	7.2	7.5

* 推定収量:1球重(g)×21,390株×出荷可能割合(%:階級外、欠株、腐敗球、抽苔株、分球株を除く)/106で算出

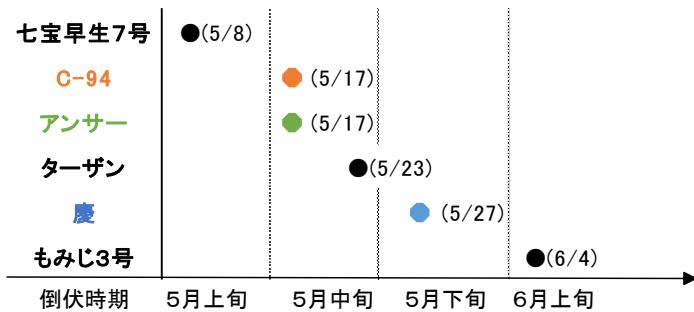


図1 有望及び慣行品種の倒伏揃期(収穫適期のおよそ1週間前)

* 倒伏揃期:全体のおよそ80%の株が倒伏した日



写真1 タマネギの様子

【重点推進事項】水田園芸の推進

【問い合わせ先】栽培研究部水田園芸科 藤野 智子